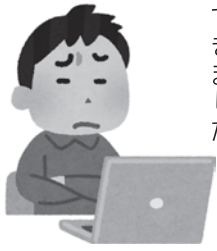


「USBメモリの突然の故障に備える」

保健福祉学部 教養教育部 准教授 石川 貴彦

パソコンのデータを保存するために、USBメモリを使用する機会が多いと思います。USBメモリは小型軽量で持ち運びしやすく、さらに大容量かつ安価という利点があるため、本学の学生なら全員と言っていいくらい所有し、レポートや資料などを保存しています。

しかしながら、今まで何も問題なく使えていたのが突然認識しなくなり、「提出するはずのレポートが消えた」と私のところに飛び込んでくる学生も少なからずいます。その場合はデータを復元ソフトを使用して復旧を試みるのですが、なかなかそう上手くはいかず、もう一度最初からレポートを書くという気の毒な状況も目にしてきました。



突然USBメモリが認識しなくなる原因として、差し込みの甘さによる接触不良やアクセス中に抜くなどの人為的な誤操作もありますが、特に注意しなければならぬのは、静電気によるデータ消失です。ちょうど今頃の冬の時期は静電気がたまりやすく、11月から3月に故障しやすいと言われていています。静電気を帯びた状態で、USBメモリを抜き差ししたり、金属部分の差し込み口付近に触れたりすることで、静電気の影響を受け、とたんに認識しなくなってしまうのです。

ハードディスクや、かつて使用されたフロッピーディスクは、磁気によってデータを記録します。磁石のS極とN極の極性を利用して、0と1のビット情報を表し、それがデジタルデータとなります。USBメモリやデジタルカメラなどに使用されるSDカードの場

合は電気でデータを記録し、メモリやカード内にある小さな箱の中に電子が滞在しているかどうかで、0と1のビット情報を表します。静電気による電流がメモリ内に流れてしまうと、電子が滞在する小さな箱が破損して、データの消失という結果を招くのです。消失を防ぐための最も簡単な方法は、USBメモリに触れる前に体内から静電気を放電することです。そのためには、ドアノブなど他の金属類に、指先ではなく手のひらでしっかり触れてから、USBメモリを抜き差しすることを意識して行うと良いでしょう。

また、USBメモリは寿命が短いことも注意しなければなりません。メモリーの品質や日常の使用頻度にもよりますが、どんなに丁寧に扱ったとしても10年程度と考えられています。これは、データの書き込みや



大学図書館にはこんな本があります

～～情報の整理に関する図書～～

- 『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』
後藤芳文・伊藤史織・登本洋子/著 玉川大学出版部
- 『超速 パソコン仕事術』
岡田充弘/著 かんき出版
- 『仕事、人生がはかどる！ふせんの技100』
館神龍彦/著 榎出版社

◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654②4199(内線4201)

大学図書館へようこそ！

昨年(平成29年)の1月は新図書館の建物が完成し、家具什器の搬入や引越し準備という段階でした。1年後の現在、明るく広々とした環境のもとで多くの学生がさまざまな学習スタイルで利用しているように、感慨深いものがあります。

◀開館時間のお知らせ▶

1月9日(火)～13日(土) 9:00～17:00
15日(月)～ 9:00～21:00

※1月8日(月)まで年末年始休館

※日曜は休館